

議員報告書

1 議員名	熊高昌三
2 期日	2025年5月15日～2025年5月16日
3 研修先等	明治大学 アカデミーコモン棟3F、アカデミーホール 東京都千代田区神田駿河台1-1
4 内容(目的)	第17回 2025年度 日本自治創造学会 研究大会 変容する社会・地方選挙 ～地方自治のあり方を問う～

5 報告事項

- 穂坂 邦夫 理事長は地方自治に精通しており、その矢張り頂きたい為、この研究大会に参加している。  
「国と地方の役割分担の明確化」「自己責任の確立と行政経費のムダを削減」、これらによって矢張り地方を取り戻す。  
そのためには、激変する社会の環境に対応出来る政治と行政が必要で、その基となる法令の改廃を常に行うべきと提唱されて来た。私も全く同意でこの自治創造学会に席を置きこの研究大会に参加している。
- 後房 雄 教授の「地方自治における政治の復権」では現状の自治政治の課題を平し政治の復権について話された。全てに賛同は出来ないが現状を変えようとする必要性については同意した。
- 飯尾 潤 教授は日本の統治構造の成り立ちについて話し、その話しの中で課題を生み出した。現在の課題を解決しようとするか、この中で最終的には政治家の問題か下と感した。

5報告事項

- 井倉義伸氏はJICAの活動を示す中で世界とのつながりは当然大切とする中で、その経験を活かし国内での地域起ち協力隊への連携など具体的に参考にする事例があった。島根県海士町等事例等は身近に人の動きの大切さを感じられた。
- 金井利之教授は毎年おこなわれる講師で、地方自治の危機を話される。今回は国の「疲弊時」に法令という権力的関与への法令の具体的な根拠について示された。大きな災害なども想定した時にも大切な事と受け取った。
- AIエンジニア 安野貴博氏のお話は、この研究大会で一番着目した内容であった。  
新しい政治は新たな選挙から生まれる。そしてAIを駆使して民意を探ると大切だ。そこから今の時代スピード感を持って出来ることと深く関わる事が出来た。  
新しい時代をどのように進むべきか多くの示唆があった。
- 安野修右 日大講師は、少し見方が新しい事に感じ、この様な考えの人も居ることば現実だと思った。
- 砂原庸介教授は、都府部と地方との政治的あり方について、民主主義のあり方を話される基本的な大切な部分と感じた。
- 磯野大介 石川県副知事は 能登の地震と豪雨災害について現場を通じた、とてりアに取組むと経験を活かし広域避難について、被災者支援の視点を持った対策について詳細に話して頂きとても参考になった。